



平成 31 年 2 月 13 日

各 位

会 社 名 株式会社福田組
代 表 者 名 代表取締役社長 太田 豊彦
(コード番号 1899 東証第一部)
問 合 せ 先 取締役管理部長 山本 武志
(TEL 025-266-9111)

中期経営計画（2019～2021）の策定について

当社は、本日開催された取締役会において、「中期経営計画（2019～2021）」を決議いたしましたので、お知らせいたします。

建設業を取り巻く事業環境は、企業の設備投資の増加を背景に建設投資額は前年度比プラスで推移し、政府建設投資についても昨年度を上回る水準が予想され、投資環境は今後も緩やかに増加するものと予想されます。手持ち工事は高水準で推移していますが、投資環境の増加による競争激化や原材料費の高騰、働き方改革への取組みなどにより利益率低下の傾向が今後も強まることが予想され、事業環境は決して楽観視できません。

このような状況下、フクダグループでは「長期ビジョン 2025（2016年2月公表）」にて10年後のあるべき姿の実現に向けて、継続的かつ安定的な成長を目指し、主な施策を「強い連結経営で地方ゼネコンの枠を超えた全国展開」としております。

フクダグループの連結経営は、連単倍率（連結売上÷親会社単体売上）が同業他社と比して高いこと、及びその事業内容をほぼ建設とその周辺事業に集中していることから、建設における高い総合力が特徴となっています。この特徴を前提に、グループ各社が個々に収益を増加させる戦略を実施し成長していくこと、さらに各社の技術やノウハウの融合を強力に進めていくこと、グループ全体がより一層成長していくことを目指します。

また、2018年度を最終年度とする中期経営計画（フェーズ1）においては、5項目からなる基本方針、既存事業における「安定的な収益基盤」の構築 将来に向けた「収益基盤の多様化」への準備 グループの連携による売上と利益の確保 人材の確保と成長 信頼されるFUKUDAグループのもと各施策に取り組み、建設市場の活況な追い風もあり、概ね業績目標・経営数値目標ともに達成いたしました。

今回策定した新中期経営計画は、「長期ビジョン 2025」の実現に向けたフェーズ2として「マルチ・ステークホルダーの満足度ナンバーワン企業へ」とのスローガンのもと、既存事業におけるポートフォリオ変革 グループ企業の新たな収益基盤の絞り込み 人材の確保と多様化 高品質で安全なサービスを提供できる現場づくり 信頼されるフクダグループの5項目を基本方針とし、持続的成長企業として更なる強固な経営基盤の構築を目指します。

本計画の達成に向け、フクダグループ一丸となって努めていく所存でございますので、株主様をはじめステークホルダーの皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

以 上

中期経営計画2021

2019年1月～2021年12月

「マルチ・ステークホルダーの満足度ナンバーワン企業へ」

2019年2月

株式会社 **福田組**

目次

I. フクダグループが目指すべきもの	P 2
II. 前中期経営計画2018の振り返り	P 3
III. 取り巻く環境と経営計画の位置づけ	P 6
IV. 長期ビジョン2025	P 7
V. 新中期経営計画2021	P 8
1) スローガン		
2) 基本方針		
3) 業績目標		

I. フクダグループが目指すべきもの

グループ スピリット

100年先も誠実

- ・フクダグループの誠実とは、かけがえのない人を愛するように、誠心誠意尽くすことである
- ・誠実を貫き、大切な人たちとのとの強いきずなをつくりあげ、そのいのちと暮らしを守る
- ・我々はグループの総力を結集し、この使命を果たし、100年先もつなげていく

長期ビジョン2025 (2016~2025)

2016年2月公表

10年後のあるべき姿として、継続的かつ安定的な成長のために主に「強い連結経営で地方ゼネコンの枠を超えた全国展開」を目指します

中期経営計画

Phase3 2022~2024
◆Phase2 2019~2021
Phase1 2016~2018 ⇒ 2016年2月公表

10年後のあるべき姿の実現に向け、3カ年毎の中期経営計画を策定し、取組んでいきます

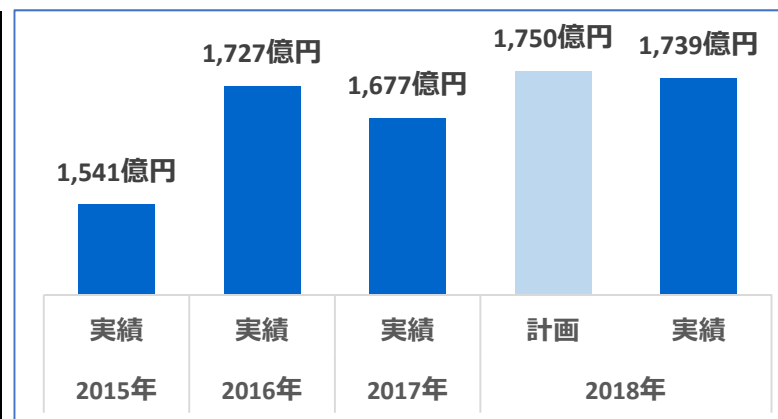
Ⅱ. 前中期経営計画2018の振り返り (1/3)

◆業績目標と達成状況【連結】

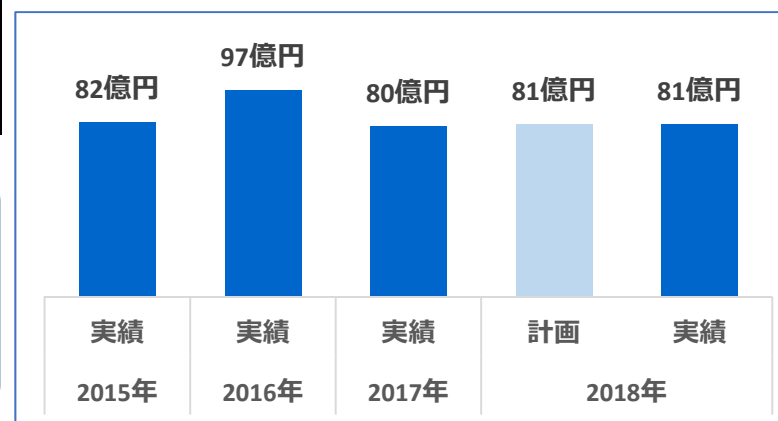
項目	2015年 中期経営計画 2018作成時の 計画	2018年度 実績	達成状況
売上高	1,750億円	1,739億円	△11億円
福田組単体	1,120億円	1,104億円	△16億円
(建築・土木)	(1,100億円)	(1,096億円)	(△4億円)
(開発事業)	(20億円)	(8億円)	(△12億円)
グループ会社	630億円	635億円	5億円
営業利益	81億円	81億円	-
福田組単体	52億円	60億円	8億円
(建築・土木)	(90億円)	(97億円)	(7億円)
(開発事業)	(5億円)	(2億円)	(△3億円)
(販管費)	(△43億円)	(△39億円)	(4億円)
グループ会社	29億円	21億円	△8億円

- ・復興関連、東京五輪やインバウンド需要に支えられ、受注は堅調に推移。しかし、着工の時期ずれや慢性的な人手不足などから、売上高は若干の未達となったものの、手持工事のコスト管理などの徹底により営業利益は達成した。
- ・今後、働き方改革への取り組み、慢性的な技術者不足などにより更なるコストの上昇が懸念されるため、一層の効率化とICT施工が急務である。

●売上高の推移



●営業利益の推移



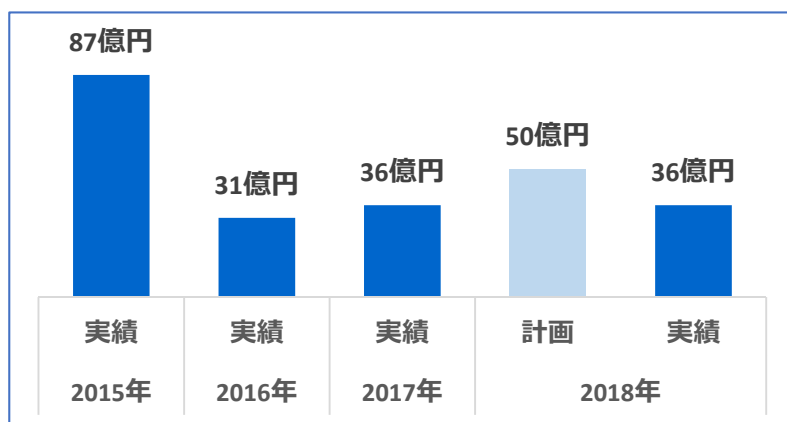
Ⅱ. 前中期経営計画2018の振り返り (2/3)

◆ 経営数値目標と達成状況【連結】

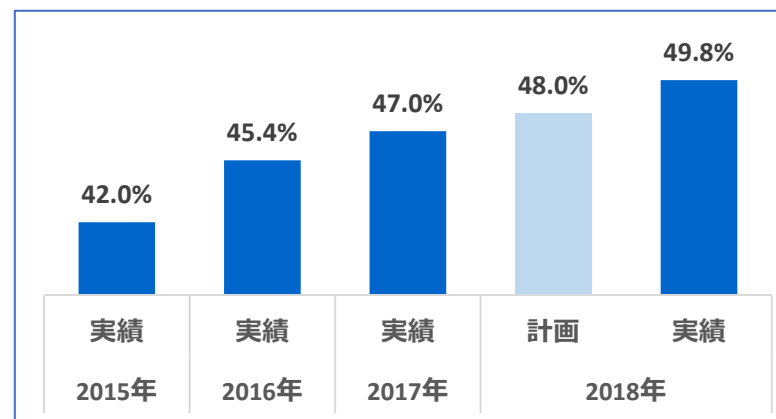
項目	2015年 中期経営計画 2018作成時の 計画	2018年度 実績	達成状況
自己資本比率	48%以上	49.8%	1.8%
有利子負債残高	50億円程度	36億	△14億円
純資産配当率	1.5%程度	1.6%	0.1%

- ・期間利益の順調な積上げにより、有利子負債削減と自己資本比率は計画達成。
- ・純資産配当率も計画達成。
- ・今後、創出した利益については、有益な投資と株主還元のパランスを総合的に検討する。

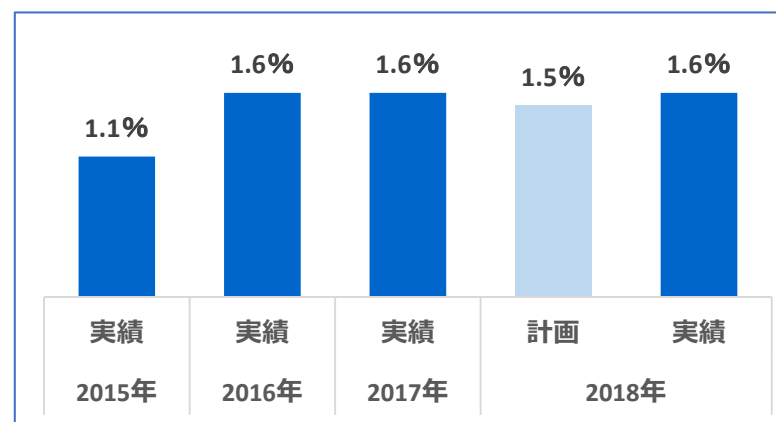
● 有利子負債残高の推移



● 自己資本比率の推移



● 純資産配当率の推移



Ⅱ. 前中期経営計画2018の振り返り (3/3)

成果

- ・首都圏での工事量増大への対応
- ・優良顧客との営業基盤強化
- ・民間土木営業の強化



受注増加

- ・有利子負債の大幅削減（実質無借金経営）
- ・強固な経営体力の維持



磐石な財務基盤

課題

- ・「新設」から「維持更新」への質的变化への対応
- ・グループ企業の新たな収益基盤の絞込み
- ・建設技術者不足への対応（働き方改革への取組み、ICTの推進）
- ・競争激化や建築コスト、人件費高騰に伴う利益率低下への対応

Ⅲ. 取り巻く環境と経営計画の位置づけ

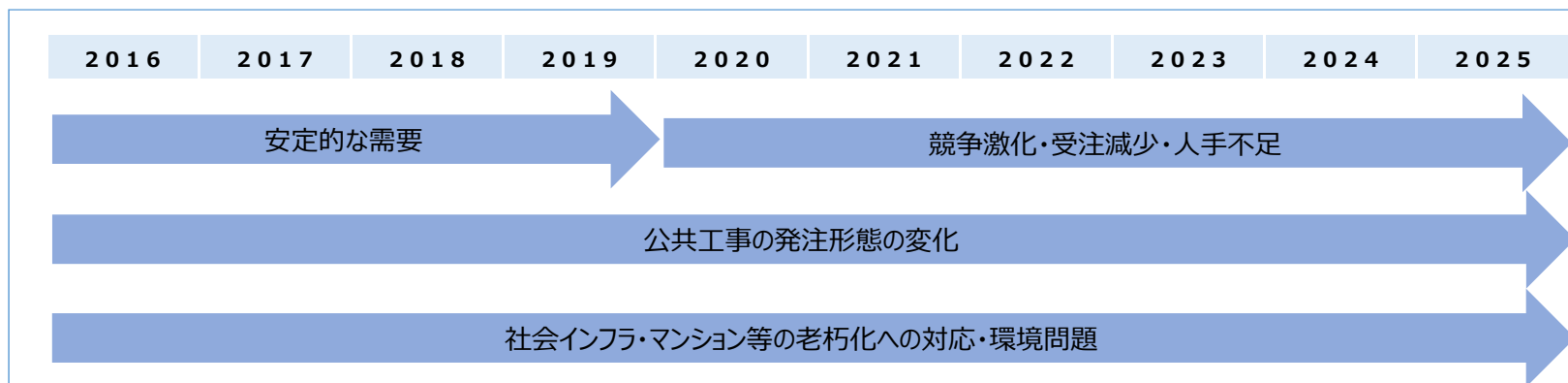
◆社会情勢

- ・アベノミクス
- ・少子高齢化の進展
- ・再生可能エネルギー
- ・防災・減災ニーズ

- ・消費税増税
- ・労働人口の減少
- ・IT技術導入の加速
- ・働き方改革

- ・高齢化・人口減少による国内市場の縮小
- ・AI技術の浸透
- ・社会ニーズの多様化
- ・環境問題

◆建設業界の見通し



◆当社の目指すべき姿

前 中計2018 phase1

- ・業績回復
- ・受注取り込み
- ・財務基盤の安定化

新 中計2021 phase2

- ・事業のポートフォリオ変革
- ・新たな収益基盤
- ・人材の確保・多様化

持続的成長の実現

- ・強い連結経営で地方ゼネコンの枠を超えた全国展開
- ・高い技術力・高い提案力のある企業集団
- ・全てのステークホルダーとWIN・WINの関係

長期ビジョン2025 次の100年へ「伝承と進化」

IV. 長期ビジョン2025 ～10年後のあるべき姿～ (2016年2月公表)

スローガン

- ・100年の歴史の伝承と次の100年に向けた挑戦

あるべき姿

- ・強い連結経営で地方ゼネコンの枠を超えた全国展開
- ・品質と安全で顧客満足の創造
- ・高い技術力・高い提案力のある企業集団
- ・優秀な人材の確保と活躍できる環境の整備
- ・全てのステークホルダーとWIN・WINの関係を構築

目標数値

- ・収益性指標：ROE 安定的に8%程度
- ・株主還元：純資産配当率2.0%又は配当性向20%を目安に

V-1. 新中期経営計画2021 スローガン



マルチ・ステークホルダーの 満足度ナンバーワン企業へ

～持続的成長企業となるために～

環境や社会へ企業としての責任を果たし、ステークホルダーから最高の評価を得て、進化し続ける企業へ

V-2. 新中期経営計画2021 基本方針

1. 既存事業におけるポートフォリオ変革

- ・建築事業・土木事業・舗装事業それぞれの社会ニーズに合わせたウエイトの置換（新設⇒維持更新・低生産性物件⇒高生産性物件・営業エリアなど）

2. グループ企業の新たな収益基盤の絞り込み

- ・建設事業・不動産事業のノウハウを活かした新規事業の展開

3. 人材の確保と多様化

- ・知的資本蓄積に向けた多様な人材の採用と教育
- ・人材確保のためのワークライフバランスの向上
- ・グループ間の人材交流

4. 高品質で安全なサービスを提供できる現場づくり

- ・協力企業と共に顧客や地域社会に質の高いサービス提供
- ・高付加価値を提供することで、グループブランド力の創出

5. 信頼されるフクダグループ

- ・法令遵守感度の向上
- ・地域社会への適切な還元（納税・雇用・地域貢献・環境問題への取組みなど）

V-3. 新中期経営計画2021 業績目標

◆業績目標【連結】

項目	2018年度 実績	2021年度 目標
売上高	1,739億円	1,890億円
福田組単体	1,104億円	1,235億円
(建築・土木)	(1,096億円)	(1,200億円)
(開発事業)	(8億円)	(35億円)
グループ会社	635億円	655億円
営業利益	81億円	79億円
福田組単体	60億円	58億円
(建築・土木)	(97億円)	(95億円)
(開発事業)	(2億円)	(8億円)
(販管費)	(△39億円)	(△45億円)
グループ会社	21億円	21億円

◆経営数値目標【連結】

項目	2018年度 実績	2021年度 目標
有利子負債残高	36億円	20億円
自己資本比率	49.8%	50.0%
ROE	9.3%	8.0%
純資産配当率	1.6%	1.6%
配当性向	17.2%	20.0%

- ・業績目標は、建設事業を取り巻く環境が依然として先行き不透明な状況の中、働き方改革や慢性的な人材不足解消に対する取組みを行いながら持続的安定成長を目指し、引き続き営業利益率4%以上を維持していく。
- ・経営数値目標は、不透明な経済環境に耐え得る経営基盤を維持しながら、安定・継続的な株主還元を目指す。

感動を築く。 FUKUDA

■ シンボルマークについて

FUKUDA GREEN 自然環境への配慮

FUKUDA BLUE より良い社会環境の創造

FUKUDA RED 人間と感動の象徴

さらに、形状の変化によって、
次のような意識を表現しています。

- 横への広がり「あらたな事業活動への挑戦」
- 上方へ「飛躍」
- 真円から楕円へ「たゆまぬ自己改革」



注 意 事 項

本資料に掲載されている計画・目標など将来に関する事項は、本資料発行時において入手可能な情報に基づき、当社および当社グループが作成したものであり、リスクや不確実性を含んでおります。

従って、実際の業績等は記載されている目標等と異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。